

<対策のポイント>

我が国の農業水利ストックマネジメント技術について、開発途上国のニーズに適応したガイドラインの策定及び現地技術者の人材育成を実施した上で、相手国政府と連携して本ガイドラインの全国展開を図り、我が国企業が有する老朽化施設の機能診断技術や補修技術等の海外展開の促進に寄与します。

<政策目標>

GFVCの構築を支援（本事業実施後に途上国で適用可能な技術を2件以上開発〔令和4年度まで〕）。

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 開発途上国におけるかんがい施設整備状況調査（令和2年度実施）

東南アジア地域の2カ国を対象に、これまで整備された基幹的農業水利施設の現状や維持管理の体制や状況、今後の改修計画等に係る情報収集を実施し、収集した情報を基に現地実証調査の対象地域、地区を選定します。

2. 実証調査の実施及び施設保全計画の検討 -（23）百万円（令和3年度実施）

選定した対象地域、対象地区において、我が国の技術を活用した機能診断の実証調査を実施し、現場ニーズやインフラ状況に適応したかんがいシステムの施設機能保全計画の検討を行うとともに、現地技術者の人材育成を行います。

3. 農業水利施設ストックマネジメント技術ガイドラインの策定 23（-）百万円

実証調査の結果に基づき、一連のかんがいシステムの施設機能保全計画の策定を含む、現地に適用可能な農業水利施設ストックマネジメント技術のガイドラインを策定し、相手国政府と連携して全国展開計画を策定します。

〔事業実施期間：令和2年度～令和4年度〕

<事業の流れ>



事業背景

- 近年、東南アジア諸国の農業水利施設の老朽化が進行し、施設機能が低下。末端の農地まで十分な農業用水が行き渡らず、生産性の低い農業を営まざるを得ない状況が生じている。また、ダム等の基幹施設の老朽化に加え世界的な気候変動により、災害リスクが増大している状況にある。
- しかし、開発途上国においては、老朽化等により劣化した農業水利施設の再建設や大規模な改修を実施するための十分な予算の確保が困難な状況。

→ 施設の改修等を計画的かつ効率的に実施できる手法が必要

我が国のストックマネジメント技術※を活用

※施設全体の現状を把握・評価し、中長期的な施設の状態を予測しながら施設の劣化とリスクに応じた対策を計画的に実施することで、施設の有効活用や長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減する取組

実施内容

現地のかんがい施設の現状調査

成果の活用

実証調査の実施及び施設機能保全計画の検討

成果の活用

ガイドラインの策定



老朽化したゲート



施設機能保全計画の策定

- 相手国政府からプロジェクト要請書の提出
- JICA等のプロジェクトの実施